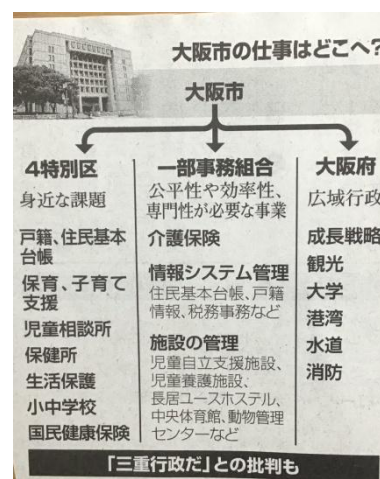


点検！都構想

今年1月12日から2月1日まで、朝日新聞大阪市内版などで21回にわたり、標題の連載が組まれた。いわゆる「都」構想について、Q and Aで解説している。

- 1 どんな制度？どう変わる？ 大阪市を4つに分割
- 2 二重行政解消、いつから議論？ 戦前から 案は様々
- 3 特別区ってどういうもの？ 市町村と同じ自治体
- 4 東京23区との違いは？ 事務分担 やや広範囲
- 5 「大阪都」に変わるの？ 名称変更 手続き必要
- 6 4つの特別区 特徴は？ 自主財源に1.5倍の差
- 7 今の区役所はどうか？ 窓口業務は現状維持
- 8 学校はどうか？ 市立の小中は区立に
- 9 保育所はこれまで通り通える？ 枠組み決定これから
- 10 大阪市の財産どうなる 継承先は事業ごとに
- 11 府はどう変わるの？ 12部局が21局体制に
- 12 市職員はどこに行くの？ 府や特別区に配属へ
- 13 「大阪消防庁」ができるの？ 当面は4特別区担当
- 14 一部事務組合の仕事は？ 介護保険や管理業務
- 15 特別区の設置コストは？ 初期費用241億円必要
- 16 市に入っていた税金は？ 特別区と府で配分へ
- 17 議会はできるの？ 4特別区ごとに設置
- 18 行政コストは減るの？ 府市試算 最大1.1兆円
- 19 前回住民投票と何が違う？ 特別区の数1つ減
- 20 住民投票できるのは？ 大阪市内の18歳以上
- 21 今後のスケジュールは？ 4月には出前協議会



昨年6月から毎回、「法定協議会」を傍聴してきた。いつも肉厚の資料をもらって、大阪市廃止と特別設置の議論を聞いてきたが、理解に苦しむことが多かった。こうして「都」構想をテーマごとにビジュアルに解説していたので参考になった。21テーマに入っていない介護や防災、まちづくりなど、他にも多くの問題がある。それと「制度案」を追認するような記述で、問題点も指摘だけに終わっているのも気になる。

でも、切り抜いていた連載記事を通して読み返すと、「都」構想のねらいと問題点が見えてくる。大阪市廃止・分割の矛盾があらわになる。議論が生煮えであり、このまま住民投票に向かうのは拙速だ。連載も参考にしながら、「都」構想という名の大阪市の廃止、特別区設置についてレポートしていきたい。

(2020年2月16日)